



下田の魅力再発見

朗読で味わう

下田の文学



令和6年6月15日(土)

13:30~15:30 (受付開始 12:45)

市民文化会館 小ホール

申込：電話・図書館カウンター
(5月8日(水)受付開始)

定員：80名(事前予約優先)

朗読：朗読ぐるーぷ 鮎の詩

主催：下田市立図書館

【朗読内容】

- ・川端康成「有難う」「伊豆天城」
 - ・松本清張「天城越え」
 - ・村松春水「実話 唐人お吉」
- (詩歌) 若松牧水、与謝野寛・晶子
佐藤惣之助、窪田空穂など

参加
無料



下田グローバル推進事業

～下田の魅力再発見～「朗読で味わう下田の文学」実施要項

1 趣 旨

伊豆半島の東南端に位置する下田は、南伊豆地域の政治、経済、文化の中心として栄え、温暖な気候と、美しい自然や温泉、幕末開港に代表される豊かな歴史、そして風待港が育んだ港町文化など、多様な魅力を持った土地である。

この多様な魅力を持った下田には、川端康成や三島由紀夫など様々な文人や作家が訪れ、憩い、触発された文学作品が数多くある。また、下田の豊かな文化的土壌を背景に地元から生まれた文学もあり、その代表である郷土誌「黒船」は、中央文壇ともつながりながら、賀茂地域独自の文学や文化を創造し、その後の下田の文化的基盤や現在まで続く観光下田の礎を築いた。

前年度、下田市文学シンポジウムを開催し、下田の文学の多様な魅力について紹介した。今年度は、さらに内容を深め、グローバル推進事業の一環として、その魅力をより具体的に味わうための朗読会を開催し、下田の有力な文化資源である文学を市民ひとりひとりが認識し、誇りに思い、未来につなげる。

2 主 催 下田市教育委員会（下田市立図書館）

3 日 時 令和6年6月15日（土） 13：30～15：30（受付開始 12:45 から）

4 会 場 下田市民文化会館 小ホール （静岡県下田市四丁目1-2）

5 募集人数 80名（事前申込優先）

6 朗 読 朗読ぐるーぷ 鮎の詩

7 申込方法 電話、図書館窓口での申し込み 事前申込開始日（5月7日（火）～ ）

申 込 先 下田市立図書館

〒415-0024 静岡県下田市四丁目7-16

TEL0558-22-0352

8 プログラム

- 受付 12:45 - 13:30(開場 13:00)
- 1. 開会 13:30 - 13:40
 - 開会の辞
 - 市長挨拶

2. 第1部 作家たちの描いた下田（小説、随筆）13:40～14:10

～天城峠を越えた先の光と闇～

「作家たちの描いた下田」というテーマで、川端康成、松本清張の短編小説や随筆を取り上げる。特に天城峠を越えて下田を旅する『伊豆の踊子』は、その後の伊豆を描く文学作品に大きな影響を与え、天城峠を越えることの意味を今なお問いかけている。天城峠を南に越えるのか、北へ越えるのか、光か闇か、希望か恐れか。美しいだけで終わらない下田の奥深い魅力に迫る。

- ①川端康成作 「有難う」
- ② 〃 「伊豆天城」（抜粋）
- ③松本清張 「天城越え」（抜粋）

第2部 文学碑とともに味わう詩歌 14:10～14:40

景勝地として、歴史の町として名高い下田は、多くの詩人や歌人、俳人が訪れている。その足跡と作品は海辺や丘の上に文学碑となって残され、今なおその感動を伝えている。文学碑に描かれた詩歌を映像とともに味わう。

- ①若山牧水（須崎：恵比寿島、吉佐美）
- ②与謝野鉄寛、晶子（白浜海岸）
- ③窪田空穂（柿崎海岸：弁天島）
- ④佐藤惣之助（下田公園）

休憩（14:40～14:55）

第3部 下田が生んだ文学 14:55～15:25

～雑誌「黒船」の作家たち～

下田の近代文学の礎となった豆陽中学校卒業生を中心に大正13年から昭和19年まで刊行された郷土誌「黒船」で活躍した作家や詩人の作品を取り上げる。

- ①村松春水『実話 唐人お吉』（抜粋）
- ②鈴木白羊子「美しいお前の寝姿」（詩集『太陽花』より）
- ③車谷 弘 随筆「58歳の書棚」（抜粋）（『銀座の柳』より）
俳句 （句集『花野』より）
- ④前田福太郎 短歌（歌集『浜木綿』『磯山』より）

3. 閉会の辞（教育長）